

第4期丹沢大山自然再生計画案について

1 策定の経緯と目的

市民団体、学識者、企業、行政など多様な主体で構成される「丹沢大山総合調査実行委員会（現在は、丹沢大山自然再生委員会）」は、平成16年度から2年をかけて「丹沢大山総合調査」を実施し、平成18年度に「丹沢大山自然再生基本構想」を取りまとめた。

県は、この基本構想に基づき丹沢大山自然再生計画を策定し、取組を行ってきた。計画では、丹沢大山を「森林のタイプ」「地形」などと標高により「4つの景観域」に分け、それぞれに自然再生の目標を設定している。

これまでの取組により、一定の成果を得ているが、自然再生には時間がかかり長期的に取り組む必要があることから、第4期丹沢大山自然再生計画を策定する。

2 策定の経過

- (1) 丹沢大山自然再生委員会での検討
 - ア 幹事会（4年5月）
 - イ 丹沢大山自然再生委員会総会（4年6月）
 - ウ 事業計画・評価専門部会（4年8月）
- (2) 自然環境保全審議会での報告
計画の検討状況について報告（4年8月）
- (3) 議会での報告
令和4年第3回定例会環境農政常任委員会に計画素案報告（4年9月）
- (4) 県民意見募集等
県民意見の募集等（4年10月～11月）

3 素案に対する県民意見募集等の結果

- (1) 県民意見募集
 - ア 募集期間
令和4年10月19日～11月18日
 - イ 意見募集の周知
 - ・ 記者発表（県政記者クラブへの情報提供）
 - ・ 県の窓口における配架
県政情報センター、各地域県政情報コーナー、自然環境保全課等
 - ・ 県のホームページによる情報提供
 - ・ SNSでの情報発信
 - ・ 県のたよりへの記事掲載

(2) 市町村への意見照会

令和4年10月19日～11月18日

(3) 実施結果

ア 寄せられた意見の件数 84件（県民82件、市町村2件）

イ 意見の内訳

区 分	県民	市町村	合計
(ア) 計画全般について	11件	2件	13件
(イ) 主要な施策と構成事業について	68件	0件	68件
(ウ) その他	3件	0件	3件
合 計	82件	2件	84件

ウ 意見の反映状況

区 分	県民	市町村	合計
(ア) 計画に反映した	20件	0件	20件
(イ) 既に計画に盛り込まれている	41件	0件	41件
(ウ) 今後の取組の参考とする	10件	0件	10件
(エ) 計画に反映できない	7件	2件	9件
(オ) その他	4件	0件	4件
合 計	82件	2件	84件

エ 寄せられた主な意見

(ア) 計画に反映した

- ・ 自然環境や生物多様性に配慮した森林管理を目指すべき。
- ・ シカのくくり罠によるクマの錯誤捕獲が増えており、対策を強化してほしい。

(イ) 既に計画に盛り込まれている

- ・ 農作物の被害を減らすために、奥山の手入れが出来ない人工林、材木として搬出不可能な人工林を広葉樹林化してもらいたい。

(ウ) 今後の取組の参考とする

- ・ 登山者だけでなくサイクリストやランナーも広く利用するヤビツ峠のトイレを通年使用できるようにしてもらいたい。

(エ) 計画に反映できない

- ・ 狩猟によってシカの個体数管理を行うのではなく、生息域を増やしたり、それでも生息密度が高くなってしまふ場所では、雌の避妊対策を行うなど、生命の尊厳を守りつつ、シカに負担がかからない方法で対策を検討してもらいたい。

(オ) その他

- ・ 東丹沢堂平沢の30年の変化の写真に感動した。

4 素案からの主な変更箇所

(1) 第3章 第4期丹沢大山自然再生計画の考え方と主要な施策

- ・ 特定課題Ⅱ「人工林の再生」について、第4期丹沢大山自然再生計画の方向性として、発揮させる公益的機能に「生物多様性保全」を追加した。
- ・ 特定課題Ⅲ「地域の再生」について、地域主体の鳥獣被害対策や地域特有の課題に応じた森林整備等の取組の支援として、「ヤマビルの被害」への対応を追記した。
- ・ 特定課題Ⅴ「シカ等野生動物の保護管理」について、野生動物の保護管理手法の検討として、ツキノワグマの「錯誤捕獲の防止」を追記した。
- ・ 特定課題ごとに取組の状況や成果を説明するコラムを追加した。

(2) その他、県議会での議論や県民意見等を踏まえ、記載内容の見直しを行った。

5 今後のスケジュール（予定）

令和5年2月 令和5年第1回県議会定例会環境農政常任委員会へ計画
案報告

令和5年3月 計画策定・公表

第4期丹沢大山自然再生計画案の概要

1 計画の基本事項

(1) 計画の位置付け

丹沢大山の自然再生に関する施策の総合的な推進を図るための神奈川県としての実行計画

(2) 計画期間

令和5年度から令和8年度までの4年間

(3) 対象地域

丹沢大山国定公園及び県立丹沢大山自然公園の区域を含む市町村※の市街化区域を除くエリア

※相模原市緑区津久井地区・秦野市・厚木市・伊勢原市・松田町・山北町・愛川町・清川村

(4) 目標

4つの景観域ごとの自然再生の目標を目指す。

<景観域ごとの自然再生の目標>

奥山域	うっそうとしたブナ林の再生
山地域	生きものも水・土も健全でなりわいも成り立つ森林への再生
里山域	多様な生きものが暮らし、山の恵みを受ける里の再生
渓流域	生きものとおいしい水を育む安心・安全な沢の再生

2 計画の構成

第1章 丹沢大山が抱える 主な課題と丹沢大山自然再 生計画の実施状況	1-1 丹沢大山における保全・再生施策策定の経緯
	1-2 自然再生計画の実施状況と自然再生委員会による点検・評価
第2章 第4期自然再生計 画の基本事項	2-1 計画策定の目的
	2-2 計画の位置付け
	2-3 計画期間
	2-4 計画の対象地域
	2-5 計画の進め方
	2-6 計画の推進体制
第3章 第4期自然再生計 画の考え方と主要な施策	3-1 第4期自然再生計画の考え方
	3-2 景観域ごとの主要な施策
	3-3 特定課題ごとの事業計画
	3-3-1 特定課題Ⅰ ブナ林の再生
	3-3-2 特定課題Ⅱ 人工林の再生
	3-3-3 特定課題Ⅲ 地域の再生
	3-3-4 特定課題Ⅳ 溪流生態系の再生
	3-3-5 特定課題Ⅴ シカ等野生動物の保護管理
	3-3-6 特定課題Ⅵ 希少動植物の保全
	3-3-7 特定課題Ⅶ 外来種の監視と防除
	3-3-8 特定課題Ⅷ 自然公園の利用のあり方
3-3-9 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発	
3-4 統合再生流域	

